

教師の主体性を引き出す校内研修の在り方についての基礎的研究Ⅱ ～ I R システムを生かしたボトムアップ型研修の成果を カリキュラム・マネジメントに生かす 2 年目の取組～

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校（前期課程） 教諭 永岡 重孝

目 次

1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 研究主題と研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 今日的教育課題から	
(2) 研修体制の傾向から	
(3) 教師の実態とこれまでの取組から	
(4) 学校教育目標のテーマと昨年度の課題から	
3 研究の目標及び柱と具体策・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(1) 研究の目標	
(2) 研究の柱と具体策	
4 研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(1) 研究の成果	
(2) 今後の課題	

参考文献・参考資料

- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編（平成 30 年）
- 「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿（令和 3 年 4 月 文部科学省）
- 「主幹教諭の担当業務（校長、副校長及び教頭の補佐）」（平成 27 年 5 月 文部科学省）
- 「主幹教諭及び指導教諭選考のための受験資格（各県市別状況）」（令和 3 年 4 月 文部科学省）
- 「指導資料 校内研修 8 号」（令和 2 年 4 月 鹿児島県総合教育センター）
- 「指導資料 校内研修 9 号」（令和 3 年 4 月 鹿児島県総合教育センター）
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの一層の授業改善に向けて
（令和 5 年 3 月 薩教学第 234 号、鹿教義第 432 号）
- 巡りあい学びあう授業研究ガイド（令和 5 年 7 月 鹿児島大学 准教授 廣瀬真琴）
- 東郷学園義務教育学校 教育課程（令和 5 年度・令和 6 年度）
- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について
（令和 2 年 6 月 国立教育政策研究所）
- 校内研究の概要（令和 5 年 4 月 山形市立第七小学校）
- 「ごく普通の公立小学校が、校内研究の常識を変えてみた」（令和 6 年 8 月 明治図書）
- E・アイスナーの「教育的鑑識眼と教育批評」の方法論：質的研究法としての特徴
（平成 18 年つくば：教育方法研究会）

1 はじめに

本研究の前段階となる『教師の主体性を引き出す校内研修の在り方についての基礎的研究』（令和5年度北薩地区教育実践記録）では、I Rシステムを生かした授業研究の導入と教師の思いを軸にしたボトムアップ型研修によって研究主題づくりや班組織を構成する方法を体系化し、教師の主体性を高めようとした。本研究では、教師の主体性を引き出す校内研修の在り方について研究したものである。2年目の取組としてI Rシステムを生かした授業研究の充実と教師一人一人の強みと主体性を引き出すため、新たに研修部及び教務部を中心とした協力体制のもと、その成果をカリキュラム・マネジメントへ生かした実践としてまとめたものである。

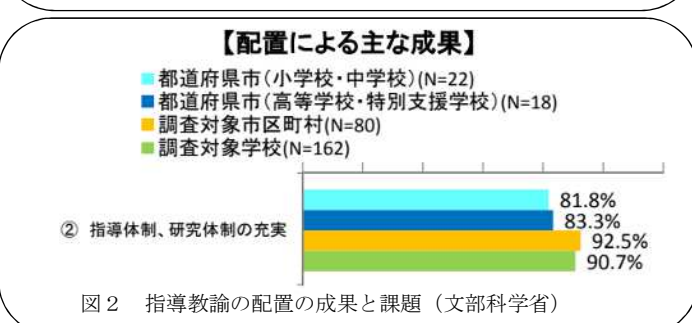
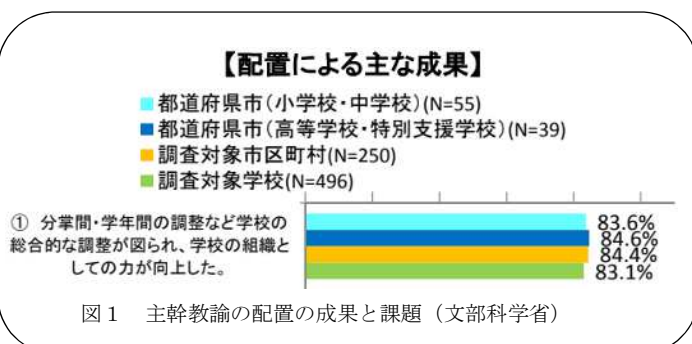
2 研究主題と研究主題設定の理由

(1) 今日的教育課題から

教師は、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」を求め、様々な教育活動での工夫を行ってきている。では、私たち教師の学びは、どうだろうか。教師の学びの場として設定されている校内研修が「受動的で一方向な学び」「一律一斉の学び」「孤立的な学び」に陥っている場面はないだろうか。文部科学省は、教師が自ら問いをもち、研修に取り組むことで、振り返り、自らの学びを再構成する教師の姿を求めており、子供と相似形の学びを教師自身も行うことが重要だとしている。このことを踏まえつつ、本校では、研修観をアップデートするための新しい取組や工夫が校内研修に必要であると考えた。（設定理由①）

(2) 研修体制の傾向から

校内研修の在り方を考察するため、全国及び本県の研修体制についての特徴を調査した。※¹その結果、2つの傾向に気付いた。第一に、本県の傾向として教育課程に掲載される研究組織図が校内のみにとどまり、外部組織とのつながりが表記されないことが多く、本校も同様であった。一方、全国では、行政や大学等とのつながりを示した組織図が多く、連携が重視されていた。よって、本校でも外部とのつながりを示し、連携を強化する取組によって研修の充実につなげたいと考えた。（設定理由②）第二に、本県の公立校は主幹教諭や指導教諭が置かれていないことである。全国では、研究組織図の中でこれらの教諭も位置付けられていることが多く、管理職と教諭をつなぐパイプ役としての働きかけによって互いのビジョンが共有しやすくなり、校内研修の充実につなげている。ただ、本県の現状を踏まえると現時点では難しい。そこで、管理職が掲げるビジョンの共有と授業改善を促すため、研修部が働きかけることによって研修の充実と教師の資質・向上につなげたいと考えた。（設定理由③）



※¹ 北薩・始良・大隅・鹿児島地区の学校において教育課程に記載されている研究組織図と教育課程研究センターによる研究指定校・地域事業における研究成果報告書に掲載されている研究組織図をもとに調査及び分析したもの。

(3) 教師の実態とこれまでの取組から

- 令和4年度の研究公開実施後の研修のまとめから
- 1)「学習者主体」の授業づくりと授業研究
 - 2)職員のモチベーションの向上とビジョンの共有
 - 3)一人一人が「自分事」として取り組む研究

上記は、本研究の発端となった研修課題である。1年目は、これまでの一斉一律な授業研究や受動的で一方方向になりがちだった研修体制を見直し、子供の学ぶ姿を基にして学び合う授業研究や教師の思いを軸にしてボトムアップ型校内研修へ転換する取組などを行った。その結果、気付くことができなかった子供の様子に気付いたり、他の教師の意見に新しい見方・考え方を見いだしたりして教育的鑑識眼^{※2}の高まりが見られた。また、一人一人が考えて取り組む研修にしたことで満足感や充実感も得ることができた。一方、課題として、一部の教師から「見通しがもてない」「研修の学びが反映されているのか分からない」などの声が聞かれた。そこで、今年度は、学校づくりをしていることに価値を感じ、より主体的な教師の姿を目指しながら、その取組が反映されるカリキュラム・マネジメントの工夫を図ろうとした。(設定理由④)

表1 本研究における年次計画

期	年 数	経 過
創造期	開校1～3年	「東郷スタイル」の実践・整理
充実期	開校4～6年	第1次研究公開 令和4年度
	今年度の取組	教師の主体性を引き出す校内研修の基礎づくり 令和5年度
	令和6年度	教師の主体性を引き出す校内研修の充実
発展期	開校7～9年	「令和の日本型学校教育」を担う校内研修の深化

(4) 学校教育目標のテーマと昨年度の課題から

ここまで『教師の主体性と校内研修の在り方』について「今日的教育課題」「研修体制の傾向から」「教師の実態とこれまでの取組」から、校内研修について述べてきた。そして、その最終目標は、本校の学校教育目標の達成にある。本校の学校教育目標は以下のとおりである。

ふるさとを愛し 自ら学び 心豊かにたくましく 夢実現に挑む児童生徒の育成

また、本校はテーマとして『気付き、考え、貢献する』(R6)、『気付き、考え、貢献する～感謝する心を通して～』(R7)を設定している。これは、子供も教師も主体性をもって取り組む姿勢を示しており、まさに文部科学省の求める学びの姿勢でもある。そこで、2年目の取組として昨年度の課題を踏まえつつ、教師の主体性を一層高める研修の充実とその成果をカリキュラム・マネジメントに生かすことで教育目標の達成に迫ろうと考え、次のような研究主題を設定した。

教師の主体性を引き出す校内研修の在り方についての基礎的研究Ⅱ

～IRシステムを生かしたボトムアップ型研修の成果を

カリキュラム・マネジメントに生かす2年目の取組～

3 研究の目標及び柱と具体策

(1) 研究の目標

◎ 子供の姿を基に、主体的に取り組むカリキュラム・マネジメントと教師の学びを目指す。

(2) 研究の柱と具体策

今年度は、授業を通して観察された子供の姿を基にして研修の深化を図りながら、教師の主体性を高めるために「研修→実践→自己の振り返り→研修…」のサイクルが可能となる時間の確保や学びの場を整備して、その成果を教育課程へ反映させていくための具体策を考えることとした。

※² 教育的鑑識眼… 子供が見せる複雑で偶然性を潜めた活動の意味や価値を総合的・即興的に解釈し、臨機応変に適切な指導を行うために教員に不可欠な能力の一つ。

柱Ⅰ	年間を通して、授業の中で学ぶ子供の姿を観察し、観察した事実を基にして語り合う I R システムを生かした授業研究に取り組む。※ ³ (設定理由①, ③)
具体策	ア 子供の姿に着目した授業研究 … 子供の言動に注目して観察し、観察した事実を基に語り合う授業研究に取り組み、「観」の交流を通じて目指す子供の像の共有を図るとともに、同僚性を高める。 イ 授業改善を推進する研修部の動き … 日々の授業においても I R の視点から授業を観察し、その情報を教師にフィードバックする。
柱Ⅱ	自分事として研究に取り組み、目指す姿を明確にした上でカリキュラム・マネジメントに取り組む。(設定理由①, ④)
具体策	授業を通して見取った子供の姿を基に、ア)主題づくりやイ)必要感に基づく班づくりなどの共通の取組を全職員で行うことで協働性を高める。また、教務部と連携し、その成果をウ)教育課程に反映させることで、ビジョンを共有しながら魅力ある学校づくり(教育活動の質の向上)を実感させる。
柱Ⅲ	学びをつなぎ深めるための環境整備に取り組む。(設定理由①, ②)
具体策	ア 校時表や話し合いの場の工夫 … 教務・研修部で活動が円滑に進むための最適な環境を整える。 イ 選択研修 … 取り組む研修を選択制にして、参加者同士で研修の課題を決め、各自が課題に沿って準備したものを持ち寄り、教材研究したり語り合ったりして主体性を高める。 ウ カフェ研修 … 教務部との連携により、弾力的に使える放課後時間を活用して、教師の一人一人の強みを生かした自主的・自発的な自由参加型の研修(20分程度)を促す。 エ 研修係等ネットワークの利用 … 県内の研修係や行政等をつなぐ研修団体ネットワークを設立し、校内研修の在り方についてブラッシュアップを図る。

4 研究の実際

柱Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実際は、次のような計画とねらいで取り組んだ。

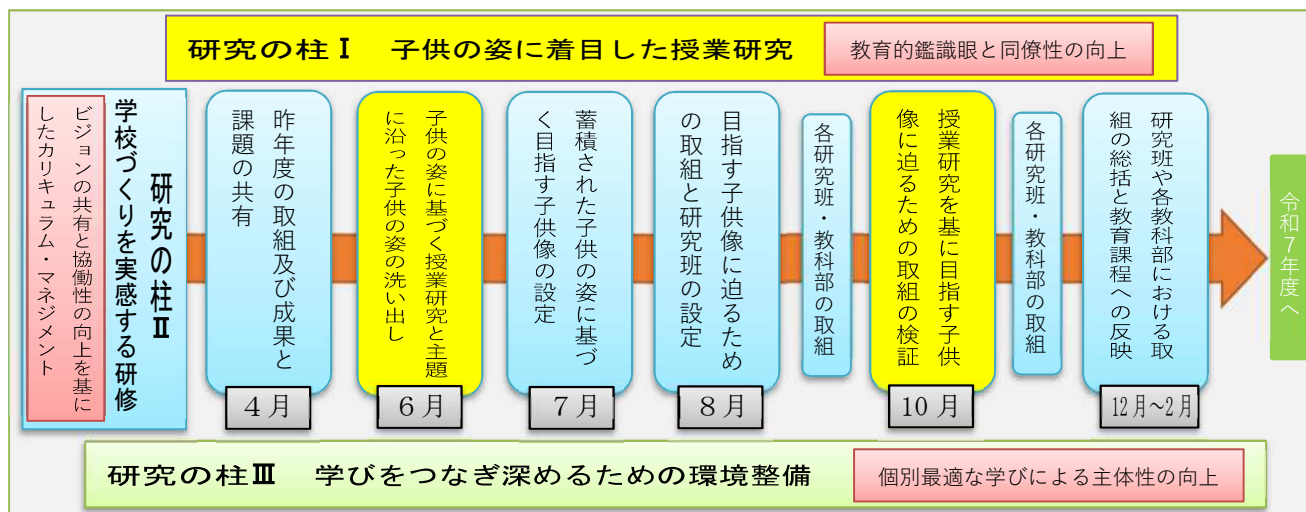


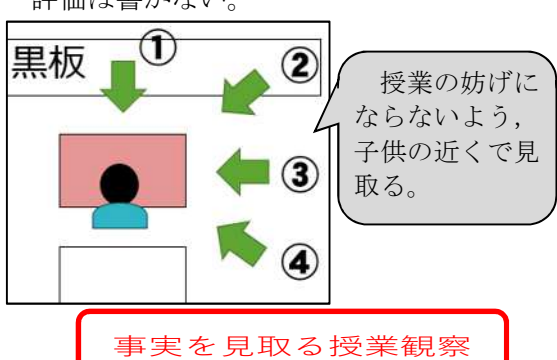
図3 研究の計画と活動のねらい

※³ 「子供の姿を観察し、観察した事実をもとにして語り合う I R システムを活用した授業研究」…「巡りあい学びあう授業研究ガイド」(令和5年7月 鹿児島大学 准教授 廣瀬真琴)をもとに、本校の実態に合わせて取り組んだもの。

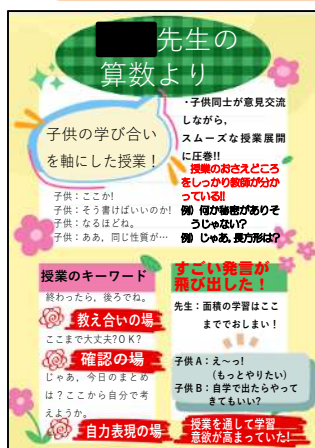
柱Ⅰ 年間を通して、授業の中で学ぶ子供の姿を観察し、観察した事実を基にして語り合うIRシステムを生かした授業研究に取り組む。(設定理由①, ③)

ア 子供の姿に注目した授業研究

昨年度に引き続き、研究主題に設定された『主体的に学ぶ姿』について具体的に探るという共通の課題とともに、本校としての目指す子供像の設定に至るため、子供の学びの姿に注目した授業研究に取り組んだ。授業研究では、教科の専門や職種などの違いを超え、互いの「学力観」や「子供観」などの「観」を見つめ直すことで教育的鑑識眼と同僚性を高めることをねらいとした。なお、本校の実態を踏まえた『子供の姿に注目した授業研究』における授業参観のポイントと授業研究の主な流れについては、以下に示す。

授業参観のポイント	授業研究の主な流れ
◎ 子供や教師の言動や表情などについて 事実のみ を記録するようにして、憶測や評価は書かない。  事実を見取る授業観察	1 アイスブレイク(5分) 2 観察記録を整理し、観察結果を共有する。(20分) 3 観察記録から目指す子供像(主体的な学びの姿)に迫っていた姿や迫れていなかった姿を取り上げ、その背景について語り合う。(25分) 4 「迫れていなかった姿」を取り上げ、目指す子供の姿に近づくためにどのような支援や指導、環境設定などを必要としたかを話し合い、今後の展望を考える。(25分) 5 各班で集まり、グループで話し合ったことを伝え合い、今後の班の取組について語り合う。(25分) 「観」の交流 意見を聞き終わったら終了と思わせないために、「みんな分かった?」「他に付け足したいことない?」「もっと簡単に言えない?」などが言える ファシリテーター的な役割の子供を育てていくことが大事になってきますね。 新しい気付き
写真1 授業参観の様子 	写真2 授業研究の様子 

イ 授業改善を推進する研修部の動き



校内研修で計画されている研究授業以外でも、日々の授業において子供の事実とその背景についての情報を授業者にフィードバックできる機会を増やし、教師の資質・能力の向上を高める取組を行った。具体的には、この授業改善を通して、管理職のビジョンと現場の教師をつなぐパイプ役としての効果もねらい、上図のように研修部が相互授業参観や研究授業等の場面で、IRの手法で授業を観察・分析したことを授業者に伝え、今後の授業改善に生かしてもらう方法を試みた。

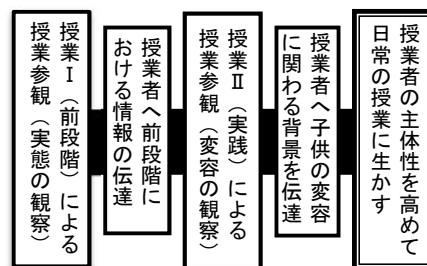


図4 授業改善推進員としての流れ

図5 授業者の主体性を高めて日常の授業に生かすための授業コメントシート(Canvaにて作成)

柱Ⅱ 自分事として研究に取り組み、目指す姿を明確にした上でのカリキュラム・マネジメントに取り組む。(設定理由①, ④)

ア 蓄積された子供の事実に基づく目指す子供像の設定

これまでの授業を通して見取った子供の姿を基に、主題づくりに取り組んだ。観察された子供の姿を**類型化**し、そのときに類型化されたキーワードを使って、目指す子供像を言語化するグループワークを全職員で取り組んだ。なお、提供授業の学年は、職員によるアンケートをもとに全体的な話し合いで決定するようにした。

類型化 ▶ 共通する言葉や類似の言葉を括りにして、グループの参加者が納得する言葉で表現すること。

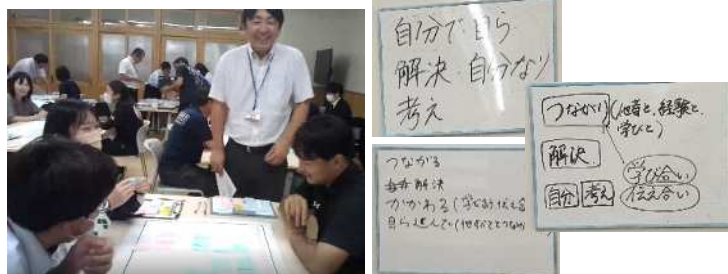


写真3 校内研修の様子と類型化された言葉【右】

- IRシステムを生かした授業研究**
〔令和6年度〕
- 4年・学級活動「楽しいクリスマス会にしよう」
 - 7年・理科「音の世界」
 - 9年・数学「三平方の定理」
- 〔令和7年度〕
- 4年・国語「新聞を作ろう[コラム]」
 - 6年・算数「資料の整理(じっくりコース)」
 - 6年・算数「資料の整理(ぐんぐんコース)」
 - 7年・国語「比喩で広がる言葉の世界」

各ステージの最終学年を観察してみても？

様々な教科で観察して共通する姿を探そう！

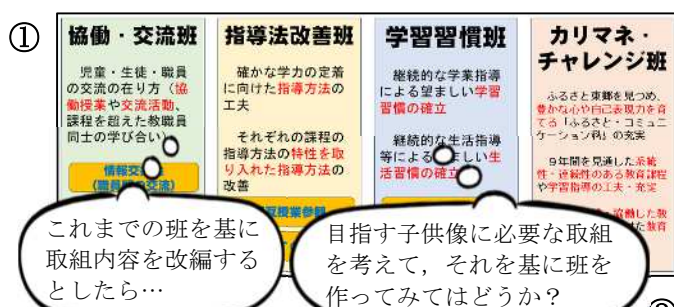


図6 目指す子供像の体系図

※「ステージ」… 本校は義務教育学校として小中一貫教育を推進しているため、小・中学校の義務教育期間9か年を3つの発達段階に分けており、各ステージに目標とするテーマを設定して教育内容の充実を図っている。

イ 目指す子供像に迫るための取組と研究班の設定

次に、言語化された目指す子供像を基に、その目標を達成するために必要な取組を全職員で考え、その取組に必要な研究班を再構成する活動を行った。



これまでの班を基に取組内容を改編するとしたら…

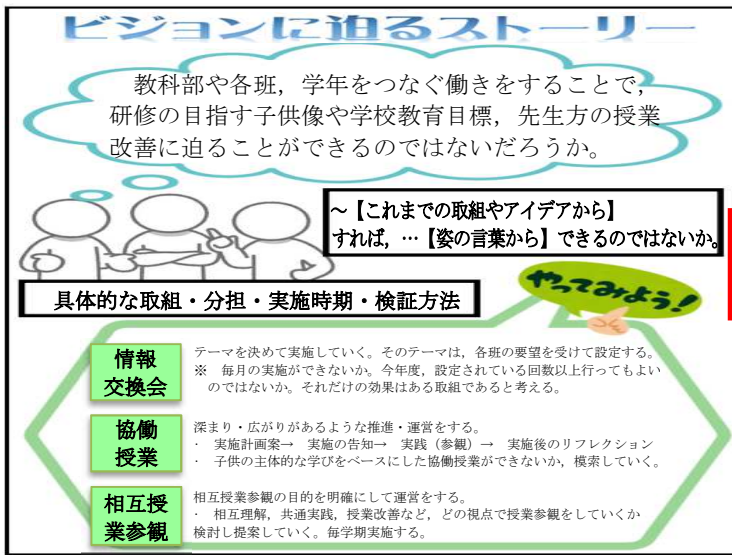
目指す子供像に必要な取組を考えて、それを基に班を作ってみてはどうか？



当初は、研修部で昨年度の班を基に内容を改編することで目指す子供像に迫ろうと考えていた【①】。しかし、研修の中で、職員から目指す子供像に迫るための取組を出し合い、それらを基に班を編成してみてもいいのではないかという意見が提案された。そこで、目指す子供像に迫るために考えられる取組についてのアンケートを実施して、その取組を整理しながら班の編成を全職員で行った【②】。全職員が納得する形で、研究班と各班の取組の方向性も決まり、職員の主体性を生かして希望する班に所属してもらった【③】。

図7 研究班が新しく再構成されたときの流れ

④ 各研究班・各教科部の「ビジョンに迫るストーリー」シート
【リレーション班より】



⑤ 教務部の提案によるロイロノート
トを利用した研修内容のD X化



研究班のメンバーが決定した後は、班ごとに目指す子供像に迫るための手立てを作成してもらった【④】。また、これまでの研究の流れや各班で作成された資料は、すべて「ロイロノート」の共有ノートにあり、いつでも加除・修正することができるようにした【⑤】。9月以降、各研究班・各教科部の「ビジョンに迫るストーリー」シートの計画に従って取組と検証を進めた【⑥】。

⑥ 【研究班の実践例の一部】

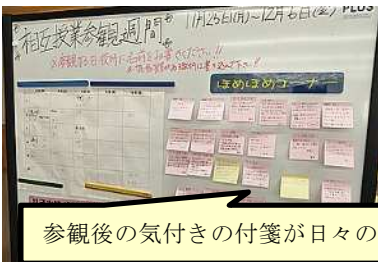
リレーション班

相互授業参観の実践から 「参観のねらい」の変容について

☆1 学期…
前期・後期相互の授業を参観し
てみよう！

参観の視点が追加

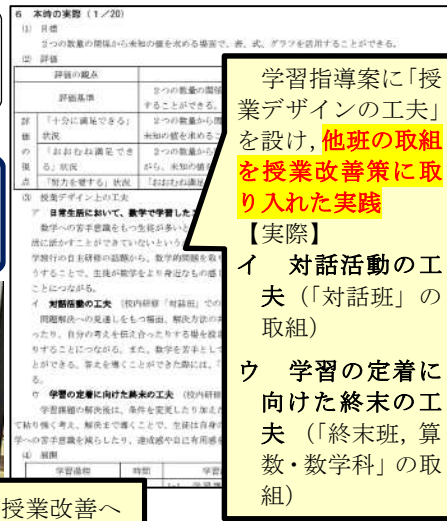
☆2学期…
視点をもって授業や学級・学年
の様子をみてみよう！



参観後の気づきの付箋が日々の授業改善へ

対話班

第8学年・数学「一次関数」の授業実践から



【實際】

対話活動の工夫（「対話班」の取組）

カ 学習の定着に向けた終末の工夫（「終末班，算数・数学科」の取組）

家庭學習班

東郷チャレンジウィークの実践から
【R5年7月まで】

7月	6 木	7 金	8 土	9 日	10 月	11 火	12 水	合計
学習予定時間	分	分	分	分	分	分	分	分
宿題								
自主学習・読書								

【R 5 年 9 月から R 6 年 10 月まで】

めあてが追加

6月	6 木	7 金	8 土	9 日	10 月	火	水	台
----	--------	--------	--------	--------	---------	---	---	---

【R 6 年 11 月から】

土日を廃止

11月	14 木	15 金	18 月	19 火	20 水	合計
-----	---------	---------	---------	---------	---------	----

土日は家庭の取組にして主体性を！

「東郷チャレンジウィーク」…月に1回、
家庭学習の様子を保護者・子供・学校の三者
で振り返る取組(ファイル形式)

ウ 各研究班・各教科部における取組を教育課程へ反映

《これまで》 会ごとに資料が…

《これから》

各々の取組を整理して教育課程でつなげると…

教育課程 反省あり 教科経営案の資料 (学習指導要領に基づいた目標等)	教務部 反省あり 教科・領域等部会の 資料(年間活動計画)
校内研修 反省あり 各研究班・教科班 の具体策の資料	教育方法 反省あり 学力向上のための 5教科部会資料

NEW

教科経営案

気づきを記入しながら
アップデート
ですね。

教育課程 使える教育課程に!!

- ① 学習指導要領の目標や内容・方法等
- ② 研修で明確になった本校の目指す子供像
- ③ 子供の学ぶ姿に基づいた教科の目指す子供像
- ④ 学力向上を含めた具体策や年間計画
- ⑤ 取組の振り返り

魅力ある学校づくりに向けた教科の充実

柱Ⅲ 学びをつなぎ深めるための工夫に取り組む。(設定理由①, ②)

ア 校時表の見直しや話し合いの場の工夫

教務部の業務改善により生み出された学級事務の時間を弾力的に利用することで、教師が各自の優先度に応じて仕事ができるようになった。また、研究推進委員会や各班による話し合いの場所も自由な場所で行ってもらうことで、意見を述べやすい話し合いの場を作る工夫をした。



そのときの気分や求める環境に応じて会議室や図書室など自由な場所で話し合う。

表2 本校の水曜日における校時表

13:40	5校時
14:25	
14:45	
15:15	帰りの会・移動・準備
16:45	専門部会/S校時活動
	学級事務
	定時退校日

教務部

水曜日が定時退校日になっていたけれど、後期教諭が通常校時6時間で終了すると、ほとんど事務時間が取れないので、予備時数や創意・行事時数を削減しました。この学級事務の時間で係間の話し合いの場や自主的なワークショップ等が実施できるようになりました。

他にも、6校時カットとなったため、ゆとりができ、授業準備や各会議等に活用できるようになりました。

校時表に関する教務部へのアンケート調査から

イ 選択研修

内容が多岐にわたる一般研修を選択制にして、可能な限り個人のニーズに応じて参加してもらった。参加後は、学年部に戻り、研修した内容をリフレクションすることができる場を設定することで、情報の共有を行った。研修に使用した資料等は、校務の共有フォルダに格納してもらうことで、いつでもアクセスできるようにした。選択制にしたことで年度内に実施できる一般研修の数の制限を緩和することができた。



写真4 選択研修で「特別活動」に参加した職員の様子

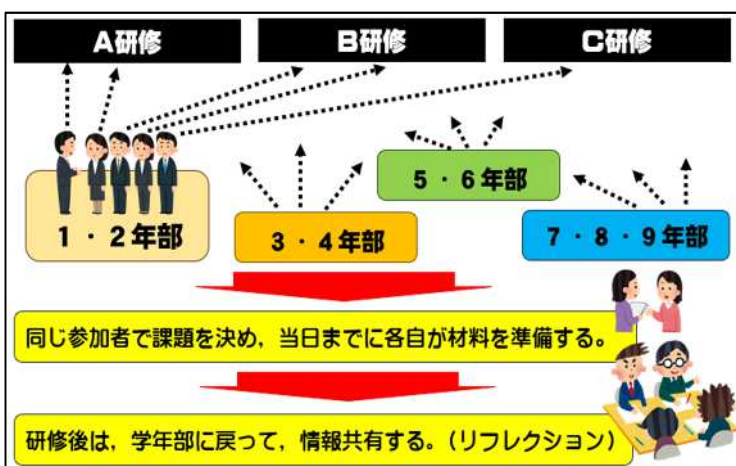


図8 選択研修実施までの流れ

ウ カフェ研修 (通称: TOGOカフェ研修)



写真5 放課後に「Canva」の利便性を知る研修に参加する様子【左】
「Canva」を活用した教材づくりの研修に参加する様子【右】

弾力的な利用が可能になった学級事務の時間で、教師一人一人の強みを生かした自主的・自発的な自由参加型の研修(15～30分程度)を推奨した。特に、個別最適な学びを推進するため「自由に発信・自由なスタイルで・自由に学ぶ」という方向性で取り組んだ。

エ 研修係等ネットワークの利用（研修係等ネットワーク～この指とまれ～ 通称:研とま）

このネットワークは、県内にある各学校の校内研修が充実することを目的として、県内の研修係同士をつなぐネットワークとして立ち上げた。県内には、様々な取組や工夫を凝らした校内研修があり、その取組を共有することができれば校内研修の充実につながると考えた。そこで、県域アカウントを利用して教育的互惠性を高めるための組織を Microsoft Teams で作成した。幸いこのネットワークには、教諭のみならず管理職や行政、在外日本人学校、他県からなど約 130 人以上が集まり、研修への「困り感」を抱く教師たちにとって強力な応援ツールとなった。そこで本校では、このネットワークを利用して校内研修を参観してもらうことで研究授業の視点や研修の方法などについて感想や意見を求めることができた。



写真 6

研修係等ネットワーク～この指とまれ～（通称:研とま）のトップ画面【右上】

オンライン参加による研究授業・授業研究の実施を県内に案内したポスター（Canvaにて職員が作成）【上】

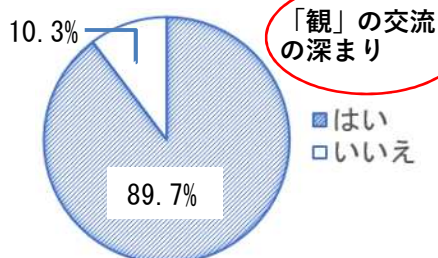
5 おわりに

(1) 研究の成果

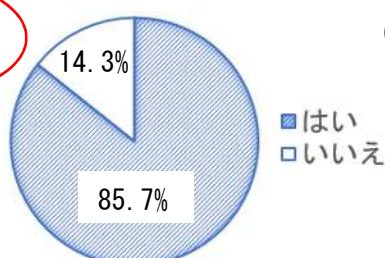
本研究では、教師の主体性を引き出す校内研修に向けて「IRシステムによる授業研究の充実」と「教師一人一人の強みと主体性を引き出すための取組」を実践してきた。授業研究では、必要に応じて主題を設定したことで目的をもって話し合い、事実に基づく目指す子供像の設定や職員の必要感から構成された研究班を作ることができた。そして、様々な研修スタイルに挑戦することで研修の可能性に気付くことができた。さらに、ネットワーク・オンラインを利用することで地理的距離を超えて研修を共有できる環境を整え、県内の教育的互惠性を高めることにもつながった。最後に、各取組を価値付けて教育課程に反映させ、教育活動の質の向上を高めることができた。

○ 授業研究後の意識調査(回答数 30 人) R 6. 10. 30

グループ内で語り合う中で、納得したり共感したりする場面がありましたか？



展望シート※4で互いに出し合ったアイデアについて納得したり共感したりする場面はありましたか？



班の今後の取組についてメンバー内で現状を把握したり共通理解したりすることができましたか？



※4 展望シート… 授業観察で記録された子供の学ぶ姿をもとにして、考えられた目指す子供像に迫るための手立てを短期的・長期的取組に整理するシートのこと。

○ 授業改善を推進するために支援した結果（授業後の個別アンケート結果から）

質問：「授業の前後で変化があったことを教えてください。」

授業改善の意識と指導力の高まり



A先生

初任者としての自分の立ち位置からは、先生方からアドバイスやアイデアをいただける場があるのは、すごくありがたかったです。授業コメントはうれしすぎたので、ラミネートして飾っておきます。



B先生

発問・指示の間や流し方を意識しました。意識一つで変わるのかなと思います。あとは、聞き方ですね。普段から聞き方を意識していますが、…(中略)…今回は学活だったので子供に委ねるという時間を多くとることができたかなと思います。

○ 選択研修の感想の一部 R 6. 8. 2

- ・自分達でつくっている感じがあってよかった。
- ・有用なサイトについての紹介があり、実際に試すことで参考になった。
- ・自分の関心のあるテーマについて学ぶことができ、新しく知ることが多くあった。また、少ない人数だったからこそ、分からないことを遠慮せずに聞けたり対話をしたりできる雰囲気だったのもよかった。
- ・それぞれが違う内容についてそれぞれが研修を行い、研修の内容を報告し合うことで、1度の研修でさまざまな内容を知ることができた。

主体性の高まり

心理的安全性

教育的知見の向上

○ 校内研修をオンライン参観した先生方の感想の一部 R 6. 10. 28

- 校内研修をオンラインで参観するという新しい試みでしたが、他の学校の研修の様子を見ることができ、とてもよい機会でした。自分がその子だったら…(行動)という視点は、これまでの自分だったらこうする…(指導)という知識がある人の意見が中心に置かれる研修の在り方とはすごく違っていて、グループの共感が得やすく、話しやすそうだなと思いました。
- 【授業研究について】
2枚目のシートで目指す子供像に迫っていた事実・迫れていなかった事実という視点での分類がなるほどと思いました。この視点で行うことで、全職員が常に目指す子供像を意識できるとも思いました。3枚目のシートの手順（迫れていなかった姿→どんな心の声→どんな支援・指導・環境設定が必要か）も初めて知りました。
- 【各班での班会（対話班）について】
何のために何を話し合うのか明確にする、次に教えるために対話する、班でファシリテートできる児童の育成など、話し合いの質が高かったです。
- 本校の授業研究と比べながら、視聴させていただきました。とても勉強になりました。

教育的互惠性

研修観の転換

取組の価値付け

○ 令和7年度教育課程における新・教科経営案

研修で明らかになった本校の目指す子供像に基づいて、各教科の取組や各種部会の取組等を教科経営案に反映させた形式ができた。（A 4 見開きページ）

子供の学ぶ姿から明確になった本校の目指す子供像

子供の学ぶ姿に基づいた教科における目指す子供像

○○科 教科経営案

各教科の学習指導要領における目標や内容等

本校の目指す子供像に対する各教科の具体策（学力向上対策を含む）

各教科の月ごとの年間計画

- ・研修における取組
- ・教育方法における取組
- ・協働授業等の取組
- ・校内行事等

各教科の具体策に対する取組の振り返り

○ 令和7年度教育課程における校内研修計画

各研究班の成果や課題から次年度の「研究の方向性」を示すことで価値付けを行い、取組の継続化を図った。



写真7 各研究班が成果を発表したときの様子

校内研修計画

1 研修テーマ

2 研究の方向性

・各研究班の成果と課題から

3 研究組織図

4 年間研修計画

(2) 今後の課題

- 教師のファシリテーションスキルを高め、教育的鑑識眼を向上させて教育効果を最大化する。
- 継続して、取組を教育課程に反映させ、研修体制の整備により教師の流動性に対応する。
- 研修を「全体から個へのアプローチ」に拡大し、内発的動機付けによる授業改善を促すとともに、授業改善を推進する動きを活発化させ、授業を基に語り合う学校文化の醸成につなげる。